



東北に春を告げるまち

広野町の避難からの復興の現状と 今後の取組について

令和2年5月
福島県双葉郡広野町

◆ 広野町の位置と概況

● 位置

- 東京都心から 238 km、宮城県 仙台市から 128 km
- 福島県浜通り地方の中部、双葉郡の最も南端に位置し、東に太平洋を臨み、西に阿武隈山系、南はいわき市と北は楡葉町と隣接
- 東西13km、南北7kmの東西に長い町域
- 総面積 58.69km²



● 人口と世帯数

- 人口 : 5,490人 (平成23年3月11日) → 4,779人 (R2.4.30)
- 世帯数 : 1,989世帯 (平成23年3月11日) → 2,175世帯 (R2.4.30)

◆避難者の状況

■平成23年12月末時点

- ・町内生活者 242人
- ・県内避難者 4,328人
- ・県外避難者 912人

■令和2年4月末時点

- ・町内生活者 4,247人
- ・県内避難者 472人
(うち いわき市 448人)
- ・県外避難者 121人

◆帰還者の状況

- 応急仮設住宅等の供与期間終了に伴う町民の帰還者数は、4月末時点で4,247人となり、住基人口4,779人に対する帰還率は88.9%となっている。

◆みなし居住率

■令和2年4月末時点

- 町民居住者4,247人
- 滞在者3,023人（作業員など）
（町内居住、滞在者 合計7,270人）
- 住基人口4,779人
- みなし居住率152.1%

- ※ 町民居住者と作業員など住民票を持たない滞在者を足して、住基人口で割り返した比率を「みなし居住率」として公表しています。
- ※ 災害などの緊急事態に対応すべく、滞在者の把握に努めております。

◆現在まで進めてきた主な事業

● 駅東側開発整備事業（第1期）

平成26～27年度 造成工事、道路、上・下水道整備

平成27～28年度 テナントビル、集合住宅等建設工事

平成29～30年度 ホテル建設工事



完成したテナントビル（広野みらいオフィス）



ハタゴイン福島広野 平成30年10月オープン

● 駅東側開発整備事業（第2期）

平成26～27年度 農地法手続き

平成28年度 用地取得

平成29年度 道路、住宅団地整備計画

平成30年度 住宅開発事業者の選定

令和元年度～ 道路、下水道工事

住宅団地整備事業着手

◆住民帰還と生活再建に向けた取り組み

- 医療保険や介護保険の一部負担金免除の継続や保険税及び保険料の免除措置の継続
- 外出支援サービスの拡大やデイサービスの祝日、土曜日の受け入れ実施
- 避難場所等からの移動に伴う高速道路の無料化措置継続の要望
- 避難場所から自宅等へ帰還するための移転補助（引越補助）の実施
- 地域振興券の配布やプレミアム付き商品券の発行

◆「安心・安全な町づくり」 求められる人材育成と子育て環境の強化

- 津波被害のあった駅東側を復興拠点と位置づけ、産業団地や住宅地開発を行っている。
- 復興関連の企業や地元団体などで、安心・安全ネットワーク会議を組織し、作業員の生活マナーや交通ルール、治安対策などの対策を講じている。
- 認定こども園の建設により、魅力ある教育環境や子育て環境の整備を図っている。
- 県立ふたば未来学園高校と連携し、地域の復興を支える人材育成に努めている。

◆ “福祉のまちづくり” を目指して

● 「福祉のまちづくり」宣言

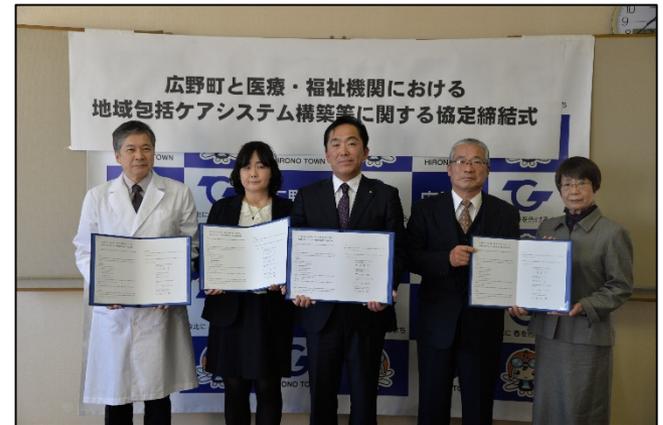
住民一人ひとりが幸せに暮らせる町、社会を実現し、広義での「人にやさしいまち」を標榜し、「福祉のまちづくり」宣言。

● 広野町と医療・福祉機関における地域包括ケアシステム構築等に関する協定

「福祉のまちづくり」の実現に向け、医療・介護・福祉の様々な課題に対し迅速かつ適切に対応するため、包括的な地域連携として「広野町地域包括ケアシステム」を構築することを目的に、広野町、高野病院、馬場医院、広野町社会福祉協議会の4機関により協定を締結。

■ 主な事業

- ・ 休診日医療体制整備事業
- ・ 広野町健康福祉手帳作成事業
- ・ 広野まるごと応援隊ネットワーク事業
- ・ 町民バス路線の拡充



◆新たな動き

● 県立中高一貫校の整備

双葉郡の教育復興の柱として福島県より、平成27年度開校を目指す県立の中高一貫校を広野町に設置される計画が示される

→平成27年4月8日、先行して高校が「福島県立ふたば未来学園高等学校」として開校（併設中学校設置は平成31年度）

■スケジュール

平成27年4月	広野中学校校舎および 仮設校舎で高校を開校
平成31年4月	本校舎にて授業開始



● 石炭ガス化複合発電（IGCC）設備の建設

東京電力より、2021年（令和3年）9月の運転開始を目指し、広野火力発電所に石炭ガス化複合発電設備（7号機、出力50万kw）の建設計画が示された

◆海を見下ろす高台に完成した文教施設 (教育の丘)



県立ふたば未来学園中高一貫校

広野小学校

広野町児童館

広野町保健センター

認定こども園ひろぱーく

◆今後、進めていく主な事業

- 広野駅周辺整備の継続

(駅舎のバリアフリー化、エレベータの設置、西側ロータリーの整備)

- アート・スポーツ構想

(アートイベント・芸術祭の開催、スポーツ振興・運動による健康づくり)

- 大学学部誘致・地域創生人材育成構想

(原発廃炉や復興人材の育成のため、高等学術機関の誘致を行う)

- 新たな特産品の開発・PR

(消費者ニーズを研究し、新たな特産品づくりにチャレンジする)

- 域外からの移住・定住策

(若者世代の移住・定住を目的に住宅開発などを促進する)

◆若者の移住・定住にむけた住宅開発

1. まちづくりコンセプト (まちづくりイメージ・総合計画) 2

“自然と調和し暮らしをはぐくむまち”

~Be in Harmony~



広野駅



●水路沿い歩行者散策路

・水路と並走し歩行者散策路を整備します。
(実施に際し、水路未利用の場合は、散策路のみの整備となります。)



【カーブ道路イメージ】

●緩やかな曲線の区画道路 (生活道路幅員6m)

・緩やかにカーブする道路・街並みは自然景観とマッチし、やわらかく愛着を感じる街並みとなります。
・道が緩やかにカーブすることで、軒の連なりに柔らかな変化が生まれ、歩行中に感じられるシークエンスが有機的に柔らかな印象を演出します。

●歩行者専用道路 (ガーデンパス)

・各ブロックから歩行者専用道路 (ガーデンパス) を派生させ、地域内及び周辺との連携を図ります。



【ガーデンパスイメージ】

●緑地・集会所施設用地

・駅からの動線に配慮し、開発整備区域の入口付近に集会所施設用地と併せて緑地を整備するほか、整備区域中央部の歩行者専用道路の交差点にも、水路と併せた緑地を整備します。
・緑地は所在者のコミュニティと近い場と同時に、街区名を記したサインウォール等を設置し、居住者のふるさとを象徴するシーンの演出を図ります。
・現況緑地により確認された既存水路を活かし、水路・散策路を整備します。
(実施に際し、水路未利用の場合は、散策路のみの整備となります。)



【集会所計画イメージ】

●水路沿い歩行者散策路

・水路敷き用地と並走し歩行者散策路を整備します。
(水路は現況存置)
・水路敷き用地と並走し歩行者散策路はコミュニティの形成を促しつつ、異種デザイン上のイベントともなります。
・歩行者散策路は歩行者専用道路として行政に地産管理をお願いし、種樹とあわせコミュニティイベントの設置も許可して頂くよう、積極的に行政に働きかけ、住民相互の交流創出に努めます。
・水路の維持管理に配慮し、簡潔型を採用します。
・歩行者が安全に通行するだけでなく、隣接する住棟の扉の背後や前面に空間的な広がりを生み出します



【水路・歩行者専用道路イメージ】

●クルドサック道路

・生活道路から派生する細街路は、安全な街づくりするため、サークル状の原形広場をもったクルドサック道路を主体として整備します。
・クルドサック道路を中心に、道路管理者と連携してデザインウォールと樹木を計画し、夜間照明による安全で幻想的な空間演出を図ります。
・単に車路として機能するのではなく、家々から常に見える位置にあり、安全で安心な見守られた空間となります。



【イメージハンブイメージ】

【クルドサックイメージ】

●イメージハンブ

・街区入り口ゲート部及び生活道路の接続点の舗装はインターロッキング等によるイメージハンブを設け、交差点を異種することで車輪スピードの抑制を図り、歩行者の安全を最優先に考えたしつらえとします。
・ゲート部のインターロッキング等の舗装変化は、街区の領域性をより引き立たせる効果を生み、ふるさと集いの醸成に役立ちます。

■凡例

- 車道
- 歩行者専用道路
- 緑地内歩行者道路
- 水路
- 円形転回広場
- 公園・緑地
- 集会所
- 住宅地
- 商業施設用地

※添付画像はイメージであり、実際とは異なります。